



研究部会報告

● OR/MS とシステムマネジメント ●

・第2回

日時：10月15日(土) 13:30~16:30

出席者：20名

場所：東京工業大学百年記念館・第1会議室

テーマと講師：

(1)「イノベーションと組織知能」

久保川俊彦 (オープンイノベーション研究所・所長)

概要：企業のイノベーションプロセスにおける「組織知能」の役割について、理論的アプローチによる分析結果が報告された。そして、それをもとにして、IT活用と組織知能との関係から、永続的な企業活動におけるイノベーションの役割にいたるまで、様々なトピックについて参加者との間で活発な意見交換が行われた。

● 不確実性理論の経営科学への応用 ●

・第4回

日時：10月22日(土) 13:30~16:30

出席者：10名

場所：千葉大学理学系総合研究棟1階105室

テーマと講師：

(1)「多重連鎖マルコフ決定過程のDPアルゴリズムについて」

伊喜哲一郎 (宮崎大学), 堀口正之 (東京電機大学)

概要：多重連鎖マルコフ決定過程に対する動的計画法によるアルゴリズムとして、著者等が提案している構造的アルゴリズム (推移行列の族に対するパターン行列の操作により状態の分類を行い、主に逐次近似法 (value iteration) を利用したアルゴリズム) を説明し、その利点と欠点を R. A. Howard の政策改良法 (policy improvement) と比較しながら検討した。

(2)「国際会議 (MDAI 2005, IFSA 2005) 出席して」

安田正實 (千葉大学)

概要：MDAI (Modeling Decision for Artificial

Intelligence) は7月25日から3日間、筑波大学で開催され、約70件の発表があった。IFSA (Fuzzy Logic, Soft Computing & Computational Intelligence, Eleventh International Fuzzy Systems Association World Congress) は7月28日から4日間、北京清華大学で行われた。創立20年の記念大会で、連日7から8の平行セッションがあり、極めて多数の講演がなされた。次回は2007年メキシコで行われる。

(3)「国際会議 (IFORS 2005) に出席して」

堀口正之 (東京電機大学)

概要：7/11~7/15の日程でホノルルにて開催された上記国際会議についての講演参加報告がされた。期間中には、25の平行セッション (90分) が1日につき3回計4日間、ORにおける様々な分野の研究報告があり、その様子について参加者に配布されたプログラムなどの資料および発表者の撮影した写真などをもとに報告がなされた。

● 意思決定と OR ●

・第13回

日時：10月29日(土) 14:30~17:15

出席者：7名

場所：富山商船高等専門学校

テーマと講師：

(1)「利用者からみた Web による最適な情報提示に関する研究」

石田哲也 (富山商船高等専門学校専攻科), 成瀬喜則 (富山商船高等専門学校)

概要：近年、多くの企業が消費者に対して Web による情報提示を行うようになってきた。その際、Web の利用のしやすさが重要視されている。本研究では、AHP を用いて評価項目の重要度を考慮し、Web による最適な情報提示について検討した。実際に、利用者から見た評価を行うために、いくつかの企業の Web について適用を試みた。

(2)「人的資本と経済成長の実証的研究」

胡 水文 (金沢大学大学院社会環境研究科), 前田 隆 (金沢大学経済学部)

概要：中国経済は改革開放後の20年間高成長を成し遂げてきた。これに伴う社会全体の貧富格差も広がってきた。本報告は所得格差の問題を取り上げ、経済成長論において、所得格差解消を収束 (con-

vergence) 問題として考えると、所得の格差の収束性が存在するかどうか、特に改革開放後の時期を考察した。

- (3)「ファジィ利得を持つ2人ゲームの均衡解の性質について」

前田 隆 (金沢大学経済学部)

概要：ファジィ利得を持つ2人非ゼロ和ゲームに対して3種類のNash均衡戦略を定義し、これらの関係を調べた。さらに、クリスプな利得を持つ2人非ゼロ和ゲームにおける囚人のジレンマの状況が、利得をファジィ化することによって解消されることを示した。

● 食料・環境問題における数理的手法 ●

・第3回

日時：11月5日(土) 13:00~16:00

出席者 9名

場所：東北大学経済学部第11演習室

テーマと講師

- (1)「多品種少量生産ラインにおける最適 scheduling の提案」

八木景子 (大阪大学大学院情報科学研究科)

概要：ジャム工場における最適生産計画を考える手法として、まず分枝限定法と、大規模な問題に対して有効な近似解法であるビームサーチ法を基にした繰り返しビームサーチ法の適用についての考察が示された。また次に製品各種を点として、2仕事間の組み合わせ適合度を2点間の距離とした巡回セールスマン問題のモデルの提案があった。

- (2)「線形制約をもつ対数線形型目的関数最適化問題に対する一般化繰り返しスケーリング法の拡張」

中山明 (福島大学理工学群共生システム理工学類)

概要：線形制約をもつ対数線形型目的関数最適化問題に対する Darroch & Ratcliff らの一般化繰り返しスケーリング法において、その解法を拡張することで各繰り返し時点で得られる近似解に重み付けした解でも次の繰り返しで利用でき、また緩和された条件のもとでより広いクラスの問題を扱えることが示された。

第4回理事会議題 (17-11-25)

平成17年度第3回理事会議事録の件

入退会承認の件

平成18年度事業計画(案)及び予算(案)

提出依頼の件

平成18・19年度役員選挙の件

委員会委員追加の件

日本学術会議協力学術研究団体申込の件

横幹連合NPO法人化及び提言についての報告の件

FMES会則承認と代表者・副代表者選出の件

第54回シンポジウム終了及び収支決算報告の件

平成17年秋季研究発表会終了及び

収支決算報告の件

平成18年秋季研究発表会開催日程(案)の件

平成17年度第1回ORセミナー予算案の件

平成17年度OR企業フォーラムの件

国際関係問合せ・依頼の件

「近藤賞」設置(案)の件